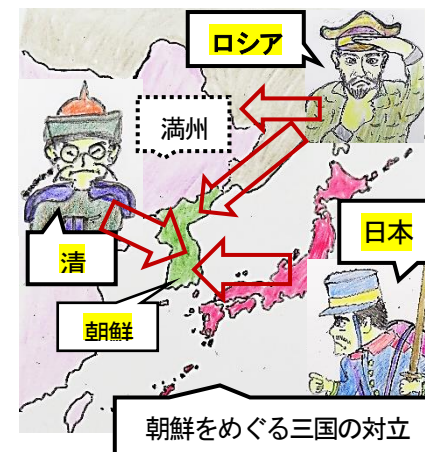


【ヤマト（日本）の歴史】⑨ 明治時代～大正時代

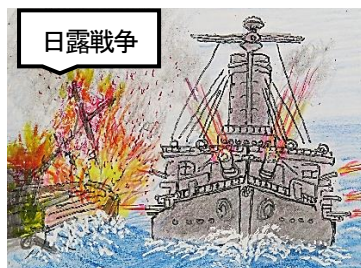
明治政府が進めた製糸業と紡績業は品質が良く、海外に輸出され日本の国力が高まりました。それと共に幕末に結んだ「外国人を日本の法律で裁けない」不平等条約が改正されました。1894年、朝鮮で政治改革の内乱が起きました。朝鮮に勢力を伸ばそうとする日本と朝鮮を支配下に置きたい清（中国）は互いに軍隊を送り、日清戦争が始まりました。これに勝った日本は清から賠償金と台湾を譲り受けました。一方、ロシアは日本の勢力拡大を止めるため日清戦争で日本が手にした領土の一部を返還させました。さらに満州へ軍隊を送り、朝鮮にも勢力を伸ばし日本との対立が深まりました。1904年、日露戦争となり、日本は多くの戦死者を出しながらも日本海で、無敵艦隊と言われたロシア艦隊を撃破するなど戦争に勝ちました。その結果、樺太の南部と満州の鉄道を譲り受け、朝鮮を日本の勢力下におくことをロシアに認めさせました。



この後、1910年に日本は朝鮮を併合します。そして日清・日露戦争に勝利した日本は、残されていた「輸入品に關税をかけられない」不平等条約の改正にこぎつけました。

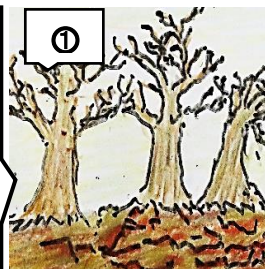
産業の発展は近代化の反面、日本初の公害ともいえる足尾銅山の鉱毒問題や、劣悪な労働条件など社会問題も引き起こしました。1914年の第一次世界大戦後の物価高騰などから生活を守る労働運動や農民運動などが起こりました。民主主義の意識も高まり、25歳以上の全男子に衆議院の選挙権が与えられ、婦人の地位向上運動も始まりました。そして「全国水平社」が設立され、差別をなくす運動も始められました。1923年には関東大震災では死者行方不明者11万人以上の被害者が出ました。

明治になり、日本の医学者たちが偉大な業績を残します。北里柴三郎は、当時難病だったの破傷風の治療法を発見しました。さらに北里研究所から志賀潔が赤痢菌の発見と治療法を確立し、また、野口英世がヘビ毒や原因不明の病原体の研究などで世界中から認められました。文学の世界でも夏目漱石の「吾輩は猫である」や樋口一葉の「たけくらべ」、森鷗外の「舞姫」、差別される人々の苦悩を書いた島崎藤村の「破壊」など多くの名作が生まれました。また、石川啄木は「一握の砂」など平易な言葉で短歌のすそ野を広げ、与謝野晶子は「君死にたもうことなかれ」で戦争に反対する気持ちを表しました。音楽では滝廉太郎の「荒城の月」などの名曲が生まれました。



【足尾銅山鉱毒事件】

- ① 鉱毒で山は木が枯れて地面もかわき荒れた。
 - ② 田に入る汚染水で稲が枯れ、川魚も死んだ。
- ※死者も千人以上出た。



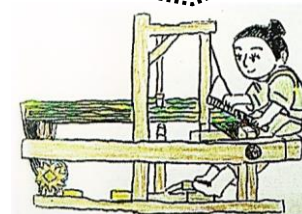
ああ弟よ 君を泣く
君死にたもうことなかれ
末に生まれし君なれば
親の情けはまさりしも
親は刃をにぎらせて
人を殺せと教えしや・・・



【シマ（奄美）の歴史】⑨ 明治～大正時代

大島紬で生活・子育てができました。

明治になり、大島紬の島外輸出量が増えてきました。1900年（明治33年）2月の「宮崎新報」には、「近来、東京・京都・大阪を始めとして、『大島紬』が珍重され、産地も大島・名瀬・笠利・赤木名から大島全域に広がり盛業」だと伝えています。また、技術的改良も飛躍的に進み、染も車輪梅と泥土の使用が基準になりました。原料糸も本土から輸入され織機も改良され、生産量が増加しました。このように明治から大正時代にかけて、奄美群島で細織り業が大きく発展したのは、それまで主要な繊維製品であった芭蕉布・芭蕉糸などの生産で培った高度技術をもとに、島民が技術改良を重ねながら独自の細製品を創出してきたことが背景にあったのです。（文：「大和村誌」より抜粋引用）

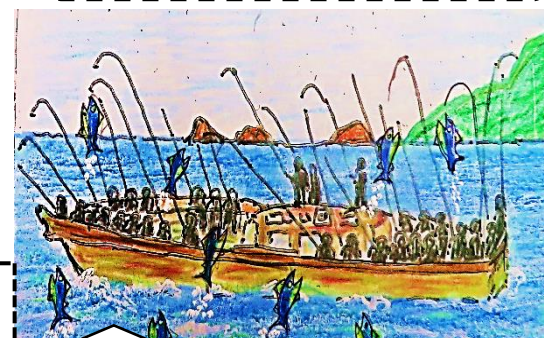


沖永良部島のユリ作りも1905年（明治38年）から奨励されました。きっかけは前年に島に来ていた鹿児島島の商人が、野山に自生していた野生ユリの球根を買い集め、「エラブユリ」の銘柄で横浜に送ったことでした。大正時代にはユリ球根価格が上昇し、島は好景気になり沖縄から芝居やサーカスが来るなど、島中がにぎわいました。その後の太平洋戦争時には軍部から「敵国のアメリカへのユリ輸出禁止、栽培者はスパイだ。」とされ、ユリ畑を荒らされるなど球根栽培の危機でした。しかし、島民たちは残った球根を協働で復活させ、美しく病害に強いユリの品種改良を重ね、世界に誇るユリの名産地となったのです。（文：「郷土の先人に学ぶ」より抜粋引用）



♪ユリや捨てているなよ 島ぬヨー宝♪

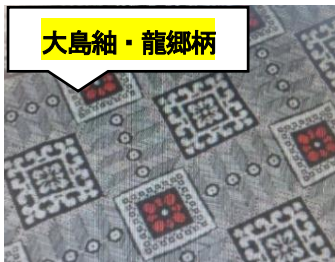
1899年（明治32年）に瀬戸内町西古見でカツオ漁が始まり、翌年には漁業組合ができました。最盛期の明治時代には、西古見集落にカツオ節製造場や船の修理場、氷貯蔵場、数件の飲食店もあり、さらに奄美島内だけでなく沖縄や本土からの出稼ぎ者も多く住み、大変な賑わいでした。やがて奄美市大熊、加計呂麻島の芝や大和村今里・名音・戸円、宇検村屋鈍にも広がり、漁船も漁獲量も増え活気あふれる時代でした。現在も芝集落ではカツオ祭りが開かれ、奄美市大熊では新たな加工施設設置や販路拡大など伝統漁の継続発展に努めています。（文：「郷土の先人に学ぶ」より抜粋引用）



明治の瀬戸内町西古見の
カツオ漁風景（想像図）



大島紬・龍郷柄



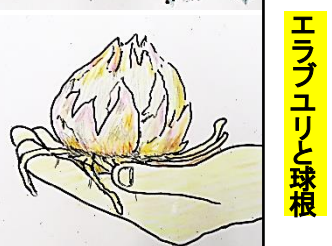
大島紬・秋名バラ



大島紬泥染め・染原料の車輪梅（テーチ木）



エラブユリと球根



新民謡「奄美の機織り娘」

♪奄美の都 名瀬の町

新川の水で テーチ木染めて

たえぬオサ音 ほほ笑み交わす

島の名産 手織りの紬♪♪

沖永良部民謡「永良部百合の花」

♪永良部百合の花 アメリカじ

咲かち ヤリククヌ

うりが黄金花 島にヨー咲かさ

アングアーヨーサトウ・・・♪♪

今里の
カツオ漁は明治三十五
年から六十三年間続いた。

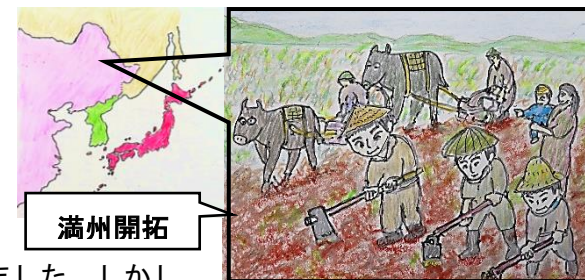
明治34(1901)年創設
今里鰹漁業記念之碑

大和村・今里鰹漁業記念之碑

【ヤマト（日本）の歴史】⑩ 昭和初期

1929 年（昭和 4 年）、ニューヨークの株式市場で株価が大暴落し、世界中が不景気になりました。（世界恐慌）。日本でも会社や工場がつぶれ、農村でも農産物価格が暴落し、人々は生活苦となりました。（昭和恐慌）そこで「中国に勢力を伸ばし、満州（中国東北部）での日本の権利を守るべきだ」との声が強まりました。1931 年（昭和 6 年）、満州で日本軍が中国軍を攻撃し「満州事変」になり、「満州国」として独立しましたが、政治の実権は日本がにぎっていました。日本政府が国策として奨励した満州開拓団の日本人移民は 20 万人以上にもなりました。しかし、日本の行動は世界から認められず孤立し、国際連盟から脱退することになりました。その後、1937 年（昭和 12 年）中国全土での「日中戦争」となりました。

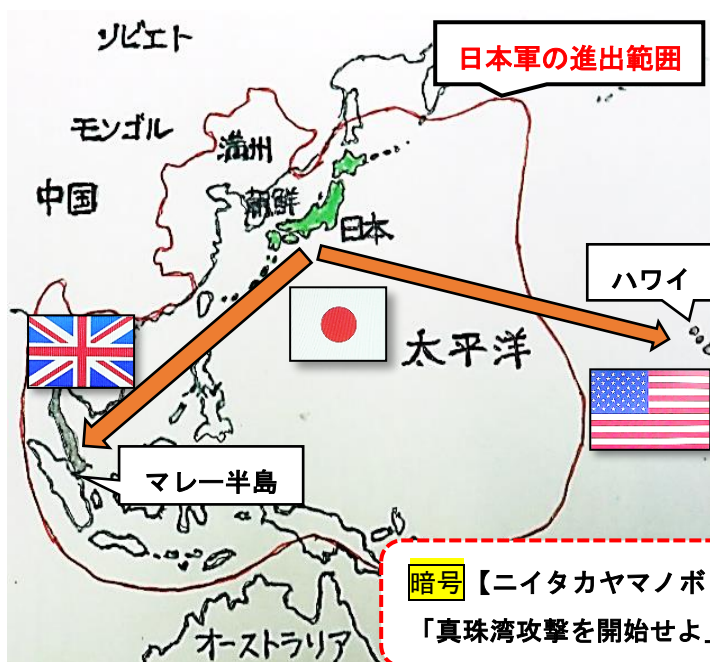
一方、ヨーロッパでも、ヒトラー率いるドイツが周辺国への侵略を進め、イギリス・フランスなどとの戦争となりました。こうして、1939 年（昭和 14 年）アジア・ヨーロッパが戦場となる第二次世界大戦となりました。日本は石油などの資源確保のため東南アジアに軍を進め、ドイツ・イタリアと三国同盟を結び、この地域を支配しようとしました。しかし、この頃の東南アジアの多くがヨーロッパの国々の植民地になっており、そこに割り込もうとする日本は、イギリスやアメリカなどと利害関係から激しく対立するようになりました。1941 年（昭和 16 年）12 月 8 日、日本はアメリカの主力軍艦や空母が停泊するハワイの真珠湾のアメリカ軍港とマレー半島のイギリス軍を攻撃しました。こうしてアメリカやイギリスなどの国々と、東南アジアや太平洋を戦場にする太平洋戦争が始まりました。



満州開拓



第二次世界大戦始まる



日本軍の進出範囲

暗号【トラ・トラ・トラ】
「真珠湾攻撃に成功せり」



空母から真珠湾へ戦闘機発進



マレー半島周辺にも進軍



半島 1500 km 進撃

暗号【ニイタカヤマノボレ】
「真珠湾攻撃を開始せよ」

【シマ（奄美）の歴史】⑩ 大正時代～昭和時代初期

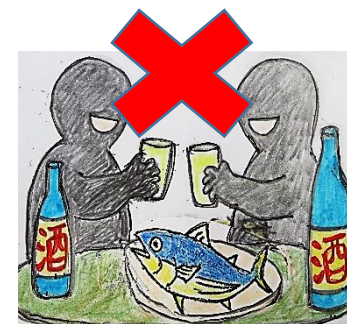
1919年（大正8年）5月、宇検村で^{たけんせいねんきんしゅかい}田検青年禁酒会が結成され、その後、同村はじめ^{かさりむら}笠利村、^{いせんむら}伊仙村、^{わんむら}湾村（現：喜界町）
 与^{よろんむら}論村に広まりました。1922年（大正11年）住用村での^{じっしやうもく}実施要目には「^{しょうちゆうとう}焼酎等を^{せつげん}節減し、^{きやく}客には酒を出さず、^{せつやくび}節約日には
 晩^{ばんしやく}酌をしない」ことが定められています。また、1924年（大正13年）4月、^{さねくむら}実久村（現：瀬戸内町）の^{せとうちゆう}芝集落では、^{しばしゆうらく}購買組合
 は「酒を1か月に1戸あたり1升以上は売らない」という^{ほうしん}方針が決められました。そして1925年（大正14年）には奄美群島の
^{きんしゅせいねんかい}禁酒青年会は19集落に増加しました。これらの運動は当初（大正期）は青年たちの自主的な「^{けんこうじょう}健康上や社会的^{かいてきふうちゆう}風潮、^{せつやくうんどう}節約運動」から始まったと考えられます。



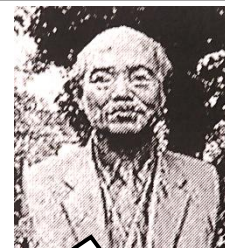
昭和になり、世界^{きやうこう}恐慌で日本中でも奄美でも^{けいざい}経済が落ち込み、島外への^{でかせ}出稼ぎも増え、台風の被害も甚大でした。そのような中でこの禁酒運動は、1927年
 （昭和2年）の^{てんのうらいとう}天皇来島を機に、各地で^{そしきてき}組織的な運動になっていきます。同年の元旦には喜界村湾^{がんとん}小学校長はじめ^{きかいむらわん}教職員33名が禁酒を始め、数年後に湾校区
 の^{せいねんだんし}成年男子の5割ほどで「^{きかいむらきんしゅかい}喜界村禁酒会」が^{そしき}組織されたといえます。同年8月7日、昭和天皇が古仁屋に上陸した際、古仁屋町民はアルコール無しでの^な歓迎会
 を実施しています。この時、天皇に同行した当時の^{どうこう}司法省刑事局長の^{しほうしょうけいじきよくちゆう}泉二新熊氏（^{もとじしんぐま}龍郷町出身）は、島民に「今の^{たつごうちゆうしゅつしん}経済危機を乗り越えるには、^{とうみん}禁酒禁煙・^{けいざいき}節酒節煙が大事だ」と説きました。そして、大島支庁や学校長らも各地で禁酒運動を広めていきます。1931年（昭和5年）住用村青年団の運動
 スローガンでは、「^{まんしゅうじへん}満州事変など国の危機を乗り越えるため、^{きき}禁酒による^{けいざいふっこう}経済復興と^{こくりよく}国力の^{いじはつてん}維持発展」が盛り込まれています。つまり、当初
 青年らを中心とした禁酒運動が、^{ちいきけいざい}地域経済を^{きゆうさい}救済する方策としてとらえられ、「^{ほうさく}勤勉・^{きんべん}儉約・^{けんやく}貯蓄」との^{ちようちく}具体的目標から、^{ぐたいてきもくひよう}しだいに「^{ふくりぞうしん}福利増進
 と^{こくりよくぞうきよう}国力増強」という意識に結び付き、^{いしき}展開していったのです。（文：【大和村誌】から抜粋引用）



泉二新熊



この当時、^{たつごむらとぐち}龍郷村戸口集落では、大島中学（現：大島高校）の^{たつのていいち}龍野定一校長を土曜日の夜学講座に招き、「^{やがくこうざ}村づくり・人づくり」の講話をしていただいて
 いる。^{たつのこうちゆう}龍野校長の送迎は、^{そうげい}地元有志が戸口・^{じもとゆうし}名瀬間3里（約12km）の山道を馬をひいて往復したという。講話の主な内容は
 「①^{きんしゅ}禁酒して^{ちようちく}貯蓄せよ。②^{おおしまつむぎせんりよう}大島紬染料の^{ぶた}テーチ木を^う植えよ。③^か豚を^う飼い、子を産ませよ。④^{まず}親は貧しくても子には^{べんがく}勉学させよ。」だったという。
^{しゅうらくみん}集落民らは^{ねっしん}熱心に講話に^{かたむ}耳を傾け、^{さつそく}早速「^{つと}禁酒会」を作り、生活向上に^{たいのう}努め、^{ぜい}滞納していた^{ぜんがくおき}税を全額納め、^{がくし}学資を貯め、子どもを^{しんがく}進学させたという。



龍野定一

【ヤマト（日本）の歴史】⑪ 太平洋戦争中

真珠湾とマレー半島への攻撃に成功した日本軍は、周辺地域に勢力を拡大していきます。しかし、物量や新兵器に勝るアメリカ軍の反撃

で敗戦を重ねるようになり、多くの軍艦や空母、戦闘機なども失い、戦死者も増えていきました。やがて反撃力が弱まった日本にアメリカ軍の

爆撃機が焼夷弾という火事を起こす爆弾を落として、日本全国の町や村が焼け野原になりました。特に1945年（昭和20年）3月の東京大空襲

はすさまじく、約10万人が命を落としました。日本全体で50万人以上が空襲の犠牲になりました。

アメリカ軍の空襲



戦況が悪化すると、若者や学生まで「召集令状」で戦争にかり出され、女学生たちも「勤労動員」で軍需工場で働かされました。学校

では戦争訓練がなされ、都市部の学童たちは地方の寺などに集団疎開させられました。武器を作る材料も不足し、家々から鍋などの金属類が

徴収されました。特に都市部では食料が不足し配給制になりました。「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは。」などの看板が町中に

立てられ、戦争に反対する者は逮捕されるなど、「戦争一色」になりました。



徴兵

軍需工場

1945年（昭和20年）3月、アメリカ軍は約1500隻の艦隊で約20万人の兵士が沖縄に上陸しました。アメリカ軍の海と空からの攻撃で建物

や家が焼かれ、逃げまどう住民は機関銃で撃たれ、当時の沖縄の人口約60万人のうち12万人以上が犠牲となる悲惨な戦場になりました。そ

して1945年（昭和20年）8月6日に広島、8月9日に長崎に原子爆弾が投下されました。一瞬のうちに激しい炎と熱風で町全体が焼かれ、

計21万人ほどが犠牲になりました。この状況で「これ以上の戦争継続は困難だ」と、8月15日、日本はアメリカ・イギリスなどの連合国に無

条件降伏しました。アジア・太平洋の各地を戦場にした4年にわたる戦争が終わりました。

地方へ疎開



【疎開先での食事例】

朝（ごはん・みそしる）
昼（ごはん・玉ねぎ）
夜（おじや・みそしる）

沖縄で地上戦が始まると、200人以上の女子生徒が「ひめゆり部隊」として野戦病院に動員され、その多くが命を落としました。



原子爆弾
キノコ雲



広島市・原爆ドーム



竹やりで
戦争訓練



米は一人
1日300g
配給だ。

【シマ（奄美）の歴史】① 太平洋戦争中

太平洋戦争末期、沖縄が戦場となり、奄美は本土防衛の最前線になりました。奄美大島と加計呂麻島の大島海峡の両側には数多くの砲台が置かれ、

ベニヤ船に爆弾を積み、敵の艦隊に突撃する特攻船「震洋」の部隊も配備されました。喜界島や徳之島には本土から戦場へ向かう

特攻機の中継飛行場が造られました。機体の整備後、「お国のために」と戦場へ飛び立って行きました。

喜界島から戦場に飛び立つ特攻隊に、情の深い島の娘たちはテンニンギクの花束を贈りました。その種子が

舞い散ったのか、喜界空港周辺で咲き誇ったことから、この花は「特攻花」と呼ばれたと言われています。



西古見の砲台跡【写真：瀬戸内町】



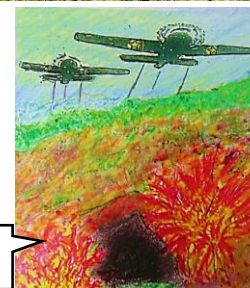
沖縄を占領したアメリカ軍は、日本軍の反撃がない奄美群島へ空爆を容赦なく繰り返しました。1945年（昭和20年）4月の名瀬への空襲で90%の

家が焼かれました。瀬戸内町の古仁屋も焼け野原にされました。アメリカ軍機は逃げる奄美の住民を低飛行で機関銃を乱射し、死者も続出し、人々

は恐怖の日々でした。1945年（昭和20年）8月6日、広島に原子爆弾が落とされたその日の午後1時ごろ、笠利町赤木名にアメリカ軍機が襲ってきま

した。1歳から74歳までの住民40名は山の防空壕に逃げましたが、そこに爆弾が落とされ、全員が犠牲になりました。

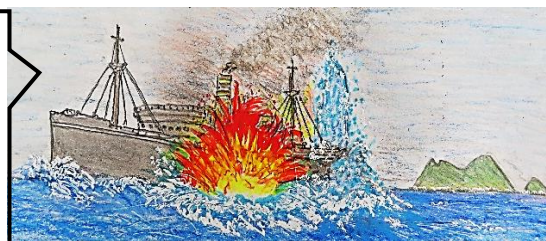
赤木名の防空壕に爆弾投下



1944年（昭和19年）、沖縄から集団疎開する学童らを乗せた「対馬丸」がトカラ列島の悪石島

付近で、アメリカ軍潜水艦に撃沈され、奇跡的に21名が助かりましたが、約1500人が犠牲となり、

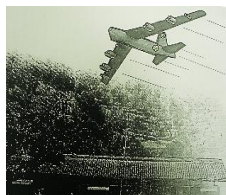
その遺体が宇検村フノシ海岸（右写真）や大和村などに流れ着き、浜に手厚く埋葬されました。



1945年（昭和20年）、大和村思勝国民学校は日本兵約200名の駐屯地になりました。それ

を察知したのか、アメリカ軍機が飛んできて、爆弾を落としました。その日は学校は休みで

兵隊さんもなく、人の被害はありませんでしたが、爆発の跡に深く大きな穴が空きました。



1944年（昭和19年）9月
徳之島から本土に疎開する武州丸も、トカラ列島の中之島沖でアメリカ軍の魚雷を受け沈没。学童や女性ら148人が犠牲になりました。



1945年（昭和20年）4月 名瀬の街90%が焼失【奄美市ホームページ】

【ヤマト（日本）の歴史】⑫ 太平洋戦争後の復興

太平洋戦争末期のアメリカ軍の空襲で、日本中が焼け野原になりました。衣食住に

困り、粗末なバラック小屋に住み、超満員の汽車で地方に食料の買い出しに行き、闇市

で生活物資をそろえ、食事する人々も多くいました。みんなが生きるのに精一杯でした。



バラック小屋で生活



地方に食料の買い出し



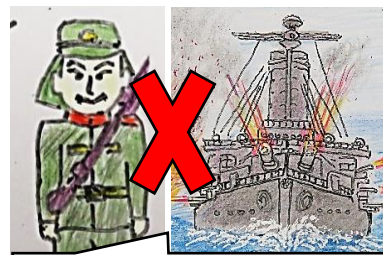
闇市での雑炊は人気

日本政府は民主主義国家として再出発するため、様々な「戦後改革」を行います。まず、「二度と戦争をしない」

と1945年（昭和20年）9月、軍隊を解散しました。戦後、日本は他国への侵略（戦争）を一度もしていません。

選挙制度では、20歳以上の男女に平等に選挙権が与えられ、衆議院では39人の女性議員も誕生しました。

農地改革により、「小作農」だった人々が自分の土地を持てるようになりました。以下、そのあらましです。



軍隊解散・平和国家に



男女平等

明治の地租改正や不景気で貧しい農民は重税が納められず、農地を売る者もいた。それをお金持ちが買い大地主となった。農地を売った農民は、元の自分の農地で農業を続ける小作人となり、一方の地主は自ら農業を行わず、小作人から多額の自作料（農地の借り代）を徴収し、巨額の収入を得ていた。この農地改革では、自作農を増やし、農村を民主化するため、政府が地主から小作地を買い取り、小作人に安い値段で売り渡すことにした。これにより、多くの小作農家が自分の農地を持つ自作農家になり、自作地も戦前の5割ほどから9割ほどに増えた。



学校教育では小学校が満6歳からの6年間、中学校が3年間の義務教育になり、高校も3年間になりました。（633制）

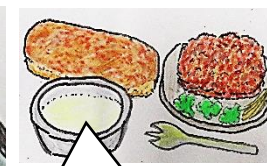
教科書もそれまでの軍国主義的な内容は省かれ、新しい内容になりました。また、1954年（昭和29年）に「学校給食法」

が制定され、学校での給食が全国的に広まっていきました。

日本の戦後改革も進んだ。国際連合の仲間になろう。



小⑥ 中③ 高③



飲み物は脱脂粉乳

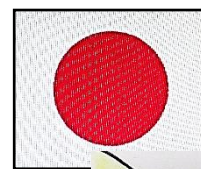
1947年（昭和22年）5月3日から、「国民権・基本的人権の尊重・平和主義」を柱とする日本国憲法が実施されま

した。敗戦後、アメリカなどの連合国軍（GHQ）に占領されていましたが、1951年（昭和26年）48か国と平和条約を

結び翌年に占領が終わり主権を回復し、そして1956年（昭和31年）に国際連合に加盟が認められ、国際社会に復帰しました。



GHQ司令長官
マッカーサー



国際連合
の旗

【シマ（奄美）の歴史】⑫ 奄美群島日本復帰運動

戦後、日本は貧しく苦しい日々の中でも、新たに平和国家を目指し様々な制度改革や環境整備などで復興していきます。

しかし、奄美と沖縄は新たな苦難の始まりでした。1946年（昭和21年）2月2日、北緯30度以南の奄美と沖縄の島々は、日本本土と切り離され、アメリカ軍の統治下に置かれたのです。つまり、奄美と沖縄では日本の政治は行われず、アメリカ軍の政治が行われたのです。これを行行政分離と言います。これにより、島民の自由は奪われ、不便で、不安で、貧しく、将来への希望の持てない日々の始まりとなったのです。

この日から、日本本土と奄美は自由な往来や連絡や送金などが禁止され、生活に必要な物資や食料が入って来なくなりました。

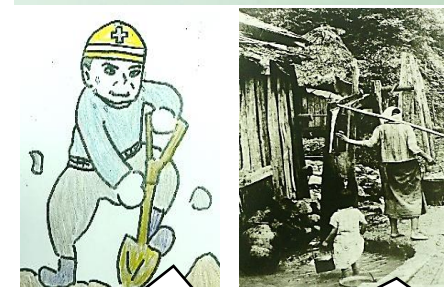
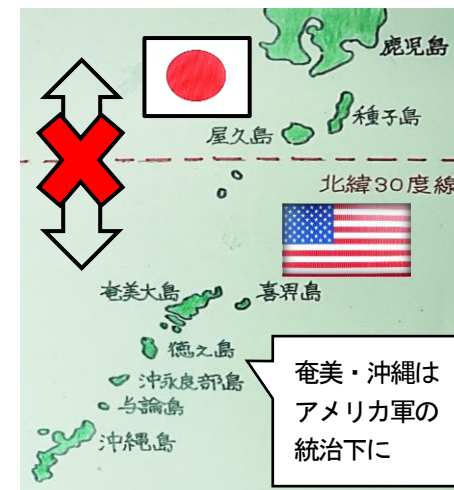
特に食料不足はひどく、アメリカ軍の支給する食料品が3倍に値上がりし、労働賃金も1日で米2升分ほどと極度に安く、しかも仕事もあまりなく、失業者が増え、暮らしに困り、そのため沖縄への出稼ぎ者も増え、奄美の活気が失われて

いきました。（米2升は約3.6kgで令和4年の値段では約1000円分）また、奄美の主な産業の黒糖生産は戦争前の30%に低下

し、大島紬生産も15%に低下するなど、奄美全体が貧乏のどん底でした。さらに日本の新聞や雑誌も読めなくなり、島の人々は将来が見えない絶望の日々でした。

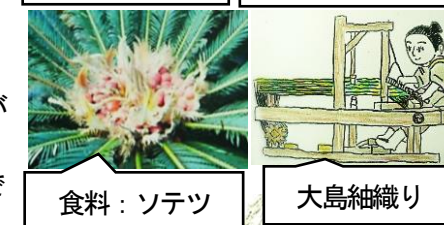
当時は水道もほとんどなく、井戸や川から水を運んでいました。水くみは主に女性や子ども達の仕事で、日照りの時は水の確保が一苦労でした。食料もあまりなく、ソテツの実の毒ぬきをしてみそやおかゆにしたものや、サツマイモや自然の木の实や果物などで空腹をしのいでいました。山に段々畑をつくり、イモや野菜を植えていました。

学校教育も満足にできませんでした。本土では新しい教科書で学習が始まりましたが、奄美では教科書もノートもなく、黒板や机やいすもあまりなく、子ども達は先生の教えることを地面に書き、聞いて覚えていました。学校もそまづなやかぶき屋根造りで、中には屋根やかべのない「青空教室」もあり、雨の日は授業がないこともありました。そんな日は子ども達も畑仕事や海や川で漁をするなど食べ物を手に入れるのに必死でした。



安い労働賃金

当時の水くみ



食料：ソテツ

大島紬織り



写真：当時の学校（提供・鹿児島県）